

## 道路事業事前評価調書

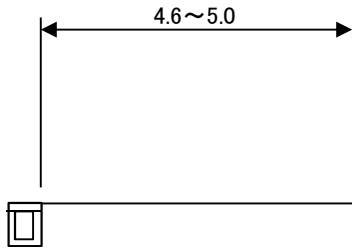
路線・河川等名	主要地方道天理加茂木津線	事業名	防災・安全交付金事業	補助・単独の別	補助
事業主体	京都府	事業箇所（区間）	きづがわ かも おおの 木津川市加茂町大野地内		
事業概要	目的	<p>主要地方道天理加茂木津線は、奈良県天理市を起点とし、京都府木津川市に至る幹線道路で、第2次緊急輸送道路に指定し、地域間を連携する重要な路線である。</p> <p>本事業箇所は、人家が連なる集落内を通り、幅員狭小・線形不良となっており、安全な通行が困難な状況である。</p> <p>本事業は、赤田川樋門改築工事にあわせて、集落内を迂回するバイパス道路の整備により、通過交通と生活交通とを分離し、交通の円滑化と安全性向上を図るものである。</p>			
	内容	<p>整備延長：L = 370 m</p> <p>現況幅員：W = 4.6 ~ 5.0 (有効幅員、歩道なし)</p> <p>計画幅員：W = 6.0 (10.5) m 2車線、歩道：片側2.5 m</p> <p>事業費：約5億円</p>			
	上位計画等	明日の京都 山城地域振興計画			
	スケジュール	着手年度：平成29年度 完成目標：平成33年度			
事業を巡る社会経済情勢及び地元情勢等	必要性	<p>○自動車交通量 8,456台/日 (H22)</p> <p>○自転車交通量 379台/日 (H22)</p> <p>○歩行者交通量 97人/日 (H22)</p> <p>○現道は山沿い（大野山）で、線形不良に加え、幅員も狭く、沿道には人家が連坦し、安全な通行が確保できない状況である。</p> <p>○赤田川樋門改築工事は、国土交通省により新水門が完成し、平成30年度より旧樋門の撤去工事のために、バイパスルート上に天理加茂木津線の迂回路が設置される予定。</p>			
事業の有効性	事業の効果及び費用対便益等	<p>○バイパス設置により、通過交通と生活交通とが分離され、交通の円滑化と安全性向上が図られる。</p> <p>○山沿いの現道は、平成23年6月に崩土による通行止めが発生しており、斜面から離れた位置にバイパスを設置することで、緊急輸送道路の信頼性が向上する。</p>			
事業の効率性等	コスト縮減代替案立案等の可能性及び良好な環境形成・保全	<p>○赤田川樋門改築事業にあわせて実施することで、盛土材等の転用が図れ、事業コストの縮減ができる。</p> <p>○現道は生活に密着した場であり、神社もあることから、景観や雰囲気を保全する必要があり、バイパス計画により現道の交通量を減少させ、景観や集落の静かな雰囲気等の保全が期待できる。</p>			
総合評価		本事業は、安心・安全な通行環境の向上を図るため新規着手の必要がある。			



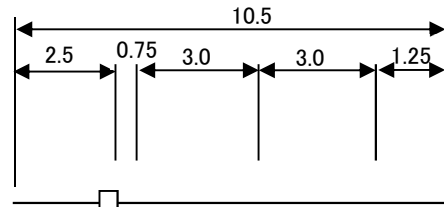
【広域位置図】



【位置図】



【現況横断面図】 (単位m)



【計画横断面図】 (単位m)

【現況・計画横断面図】



【現況写真】

『<sup>わ</sup>環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

		作成年月日	平成29年 2月 8日				
		作成部署	建設交通部 道路計画課				
事業名	主要地方道天助(茂)木津線 防災・安全交付金事業	地区名	木津川市加茂町大野地内				
概算事業費	約5億円	事業期間	平成29年度～平成33年度				
事業概要	集落内を迂回するバイパス道路の整備により、通過交通と生活交通とを分離し、交通の円滑化と安全性向上を図るものである。						
目指すべき環境像	大野集落は、大野山の東部山ろく部分にあたり、中腹には人々の日常生活と密着した神社もあることから、大規模な地形改変を避けながら、道路を作る必要がある。						
関連する公共事業	赤田川樋門改築事業（国土交通省）						
評価項目		施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価			
主要な評価の視点	選定要否						
地球環境・自然環境	地球温暖化(CO <sub>2</sub> 排出量等)	山側の地形改変を避け、対面側の低部を埋める計画としており、盛土材料は地質的に近傍由来のものが望ましい。	事業実施に必要な盛土材は、近隣の公共事業で発生する建設発生土等を積極的に活用する必要がある。	3			
	地形・地質						
	物質循環(土砂移動)				○		
	野生生物・絶滅危惧種				河川をはじめ周辺環境に配慮した工事を実施する必要がある。	工事中は濁水などが周辺に流出しないように実施する。	
	生態系						○
	その他						
生活環境	ユニバーサルデザイン	集落内の狭い道路を多く、車両が通行し、交通不安定な箇所となっており、全上の危険箇所となっており、同時に、道路に面している家屋にとっては、騒音・震動を改善する必要がある。	バイパスにより現在の道路の通行量は減り、道路に面した家屋の受ける騒音・震動は軽減される。	4			
	水環境・水循環						
	大気環境						
	土壌・地盤環境						
	騒音・振動				○		
	廃棄物・リサイクル						
	化学物質・粉じん等						
	電磁波・電波・日照						
	その他						
地域個性・文化環境	景観	現道は生活に密着した場であり、神社もあることから、景観や雰囲気を守る必要がある。	バイパス計画により、現状の景観や集落の雰囲気等の保全に努める。	3			
	里山の保全			3			
	地域の文化資産				○		
	伝統的行祭事						
	地域住民との協働						
	その他						
外部評価							